

株主のみなさまへ

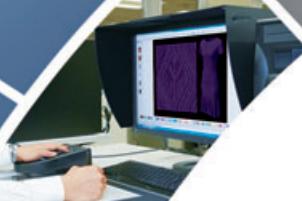
第52期 営業のご報告

2012年4月1日～2013年3月31日

- 2 会社紹介
- 3 社長メッセージ
- 6 財務ハイライト
- 7 事業別のご報告
- 8 特集：これからの50年に向かって
- 12 トピックス
- 14 創立50周年記念イベント
- 15 アンケート結果
- 16 連結財務諸表
- 18 会社概要／株式概要



SAMANDOR



株式会社島精機製作所

証券コード：6222

Ever Onward — 限りなき前進

「世界初」へのチャレンジの歴史が、「Ever Onward」の経営理念に結実しています。

当社の歩みは、現社長・島正博が「手袋編機の全自動化」という難課題を掲げて、1962年に当社を設立したことに始まります。そのひたむきな情熱と豊かな発想は、試行錯誤を経て1964年末に世界初の全自動手袋編機を世に送り出しました。技術にこだわり「最高機能の製品を経済的な価格でお届けする」という当社の企業スピリットは、創業から50年たった今でも生き続けています。

機械技術と電子技術の融合を目指してきた当社は、1970年代後半に高機能で低価格な独自の「コンピュータ横編機」を開発。80年代には、デザインシステムをはじめ、ソフト面の開発を強化することで先発の海外メーカーを凌駕し、創業

20余年にして世界のトップランナーへと躍り出ました。さらに90年代には、完全無縫製型の「ホールガーメント®横編機」を世界で初めて開発。「産業革命に匹敵する」と評されるほどのインパクトを世界のニット業界にもたらしました。

2000年以降も、当社は多様化する市場のニーズに応じて、品質と生産性を大幅に向上させた新機種を次々と発売。「シマセイキ」ブランドは、先進国から新興国まで世界中のユーザーに広く受け入れられるようになりました。

今後も革新的な技術開発を進めながら、企画提案型のビジネスモデルの浸透を図り、アパレル産業の発展に寄与するとともに、より広範囲な分野へチャレンジし続けていきます。

事業紹介



横編機事業

世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売する当社の主力ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント横編機、多彩な柄を表現できるSIR®、コストパフォーマンスの高さでユーザーから支持を得るNSSG®、SSR®など、独自の開発力を活かした豊富なラインアップで進化し続けています。



デザインシステム関連事業

ニット・アパレル業界のモノづくりを支援するデザインシステムを提供。バーチャルサンプルや三次元シミュレーションなどを駆使することで、多彩なデザインを可能にすると同時にリードタイムの短縮とコスト削減を実現。そのほか、自動裁断機やプリンティングマシンなどの製造・販売も行っています。また、近年では異業種への展開も進めています。



手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化などの高度技術を応用し、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。



その他事業

当社編機・システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。

2期ぶりの黒字転換をばねに、 さらなる飛躍を目指してまいります。

創業50周年を迎えた2013年3月期、売上高はやや減収となったものの、
2期ぶりに黒字転換を果たすことができました。この勢いを持続し、次期はさらなる飛躍を目指します。



代表取締役社長
島 正博

Q | 当期（2013年3月期）の市況と業績について説明してください。

A | 前半は主力市場で苦戦が続きましたが、第4四半期の急伸により黒字を達成できました。

当期は欧州債務問題の長期化や、米国の景気回復ペースの鈍化などから、横編機事業の主力市場である中国や欧州で顧客の設備投資が大幅に減少したことにより、第3四半期前半までは苦戦を強いられました。しかしながら、第3四半期後半からは、先行き期待感の広がりにより設備投資に前向きな動きが見られ、香港の大手ニットメーカーを中心に欧米向け商品の短納期発注に対応すべく、中国、香港市場の投資が活発化しました。これに上半期から好調であったトルコ、バングラデシュなどの売上伸長も相まって、トータルでの連結売上高は、349億70百万円（前年同期比6.3%減）と、第3四半期までの落ち込みを大幅に回復できました。

利益面も、2012年末から始まった円高修正の追い風もあり、期末にかけて急速に回復しました。営業損益は売上高減少と生産台数の減少により売上総利益率が下押しされたことで5億8百万円の損失となったものの、円安による為替差益31億19百万円の効果などもあり、経常利益は41億68百万円、当期純利益は17億54百万円と、2期ぶりに黒字を達成することができました。

なお、業績は回復傾向ではありますが、第3四半期まで



の結果を踏まえ、株主の皆様への当期配当については1株につき中間配当10円、期末配当15円の合計25円といたしました。

Q 当期の主な取り組みについて説明してください。

A 「創立50周年記念イベント」を機に、国内の受注が拡大しました。

横編機事業では、中国からの生産シフトがさらに進んだトルコやバングラデシュで売上が大幅に拡大したほか、インドネシア、ベトナムなど東南アジア各国でも販売台数を伸ばしました。また市場の質的变化が進みつつある中国では、昨年6月に上海で開催された展示会「ITMA ASIA+CITME 2012」で高品質・高付加価値製品を生産できる最新型編機とデザインシステムを中心に出席し、当社の総合力を訴求しました。

また、昨年11月には「創立50周年記念イベント」として、和歌山に国内外からお客様を招いて大規模な展示会を開催し、ホールガーメント®の進化を強くアピールしました。

この効果は大きく、当社に対する認識を新たにした国内のニット企業、アパレル企業の多くから、最新鋭のホールガーメント横編機の受注が入るなど、国内販売の拡大につながっています。

一方、デザインシステム関連事業については、国内のアパレル産業だけでなく、インテリアなどの周辺分野にも「SDS®-ONE APEX3」による革新的なビジネス提案を広げました。また当期は欧州のアパレル向け展示会にも初出展するなど、海外での営業活動にも注力しました。

Q 次期の市場展望と施策について説明してください。

A グローバルな営業展開を加速し、各国の市況に応じた提案を推進していきます。

2013年に入って中国をはじめ主力市場で設備投資が急速に回復しており、その勢いは4月以降も続いています。円高是正によって価格面での対応力を取り戻したことも加わり、次期はさらなる業績の回復を目指し、営業体制を強化します。

販売戦略面では、まず中国市場の構造変化に対応した営業活動を行います。人件費の高騰や縫製作業者の不足によって低コスト生産の限界に直面しており、中国でも先進国と同様「消費地型生産」の提案を中心に展開していきます。

引き続き、旺盛な需要が見込まれるトルコやASEAN諸国、韓国などについても、各市場の特性やニーズに応じた提案活動に注力していきます。これらの国では当社の技術力・

サポート力があらためて高い評価を得ており、着実に受注を獲得するとともにブランド力の向上にも努めていきます。

このほか、欧州や米国市場でもホールゲーム横編機とデザインシステムを軸とした提案を積極的に展開し、また国内市場に関しても50周年イベントの営業効果を踏まえ、これまで以上に精力的な提案を進めていきます。

デザインシステムに関しては、今後も国内のニット業界にとどまらず、事業分野の拡大を図るとともに、海外展示会への出展などグローバルな営業・販促展開を加速していきます。

これらの施策により、次期業績は売上高470億円、営業利益57億円、当期純利益40億円を見込んでいます。

Q | 中長期での重要課題と戦略について説明してください。

A | 「トータルファッションシステム」の提案でシマセイキブランドを浸透・拡大していきます。

最重要課題は、当社の提唱する「トータルファッションシステム」をいかに世界に広げていくかです。営業部門ではこの3月から国内営業と海外営業の垣根をなくすとともに、製品分野別の専門チームを新たに設け、営業統括部と

しました。今後は、地域担当チームと製品別専門チームの連携により、世界各地で地域密着型の営業活動を推進してまいります。

またホールゲームでの新たな取り組みとして、2012年10月に新会社「株式会社SHIMA」を設立しました。企画・デザインから生産・販売までの一貫したビジネスモデルを実証することで消費地型モノづくりの有効性を業界に示し、当社製品の需要喚起を図ることがねらいです。

横編機事業以外への展開も戦略課題です。高精度のバーチャルサンプルを作成できるデザインシステム「SDS-ONE APEX3」を核に、テキスタイルやプリント生地、丸編みなどの他業界、さらにはその先の商社・アパレル企業への提案も強化していきます。

創業以来50年、常に創造的なモノづくりにこだわり、最高機能の製品ときめ細かな技術・サービス支援に徹底して努めてきたことで、「シマセイキ」のブランドは世界の多くの国で品質と信頼の証となっています。次なる50年も当社は「Ever Onward — 限りなき前進」の精神で、多様化が進む世界各地のニーズに着実に応え、成長を目指してまいります。株主の皆様には、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。



ホールゲーム横編機の生産工場



デザインシステムの開発



企画ミーティング

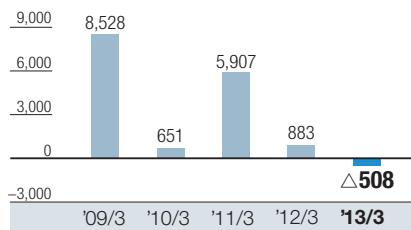
財務ハイライト(連結)

科 目		当 期 2013年3月期	前 期 2012年3月期	前期比
売上高	(百万円)	34,970	37,327	△ 6.3%
営業利益・損失(△)	(百万円)	△ 508	883	—
経常利益・損失(△)	(百万円)	4,168	△ 212	—
当期純利益・損失(△)	(百万円)	1,754	△ 642	—
1株当たり当期純利益・損失(△)	(円)	51.26	△ 18.60	—
総資産	(百万円)	112,089	106,863	4.9%
純資産	(百万円)	87,382	84,167	3.8%
ROE(自己資本当期純利益率)	(%)	2.0	△ 0.8	—

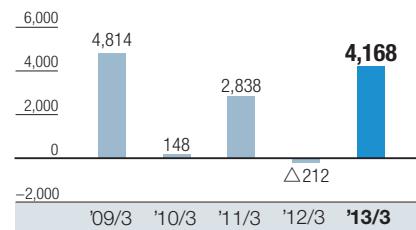
売上高 (百万円)



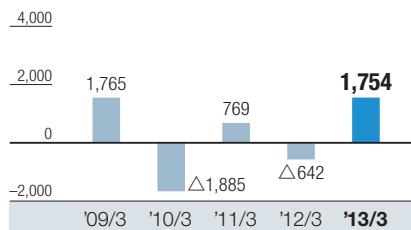
営業利益・損失(△) (百万円)



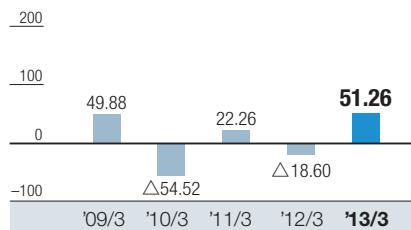
経常利益・損失(△) (百万円)



当期純利益・損失(△) (百万円)



1株当たり当期純利益・損失(△) (円)



1株当たり配当金 (円)

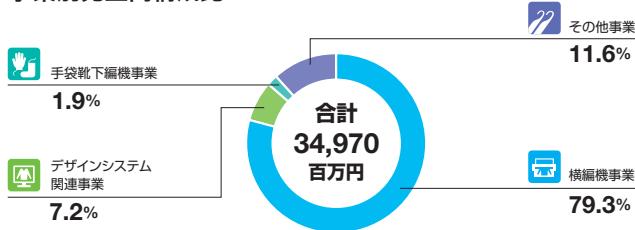


将来の見通しについて

本報告書で記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おさください。

事業別のご報告(連結)

事業別売上高構成比



横編機事業



主力市場の中国では、人件費の上昇や欧米向け輸出の減速から輸出型ニットメーカーの設備投資が第3四半期前半までは低調でしたが、第3四半期後半以降、欧米向けボリュームゾーン商品の短納期発注に対応すべく、香港の大手ニットメーカーを中心に広東省エリアの主力工場に加え、ASEAN 諸国での設備投資が加速したことにより、売上が拡大しました。

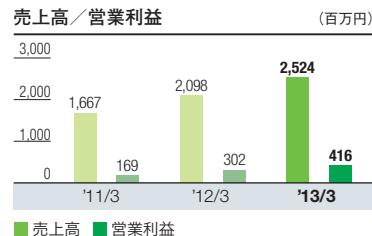
新興国市場では、急成長の続くバングラデシュで欧州系アパレルの高度な要望に応えるべくニット生産の自動化が進み、売上が増加しました。また、欧州・ロシア向け生産拠点のトルコも短納期対応で輸出競争力を高め、好調な内需も相まってNSSG®を中心に大幅な売上の増加となりました。

ホールガーメント®横編機の主力市場であるイタリアでは、昨年5月に主産地で起きた大地震の影響や金融機関の貸出抑制もあり、設備投資は低調でした。一方、国内市場では11月に開催した「創立50周年記念イベント」の効果や、中国からの生産回帰の動きなどにより設備投資が拡大し、売上増となりました。

これらの結果、横編機事業の売上高は277億23百万円(前期比6.3%減)となりました。



デザインシステム関連事業



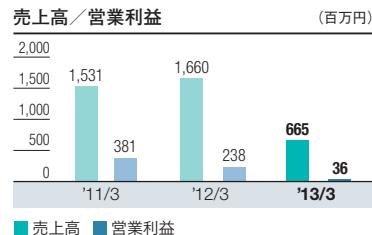
国内各地で個展を開催するなどユーザー業界に密着した企画提案型営業を積極的に展開した

結果、デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」の売上は堅調となりました。ニット以外の業界に対しても、バーチャルサンプルの活用でリードタイムの飛躍的な短縮とコストの大幅な削減を実現できるメリットを訴求したことで、ユーザー層をさらに拡大できました。また、自動裁断機「P-CAM®」も用途や機能のバリエーションを増やして販路を広げ、国内市場を中心に売上を伸ばしました。この結果、売上高は25億24百万円(前期比20.3%増)となりました。



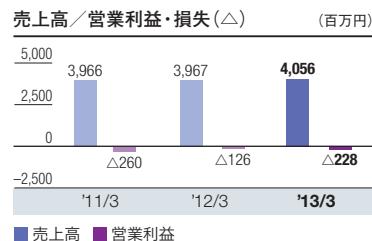
手袋靴下編機事業

世界的な景気低迷を受けて作業用手袋の需要が減少し、設備投資が低調でした。この結果、売上高は6億65百万円(前期比59.9%減)となりました。



その他事業

部品販売や修理・保守、緋績、ニット製品の販売などのその他事業の売上高は40億56百万円(前期比2.3%増)となりました。



Next 50 years

次なる50年に向かって新たな歩みを開始したシマセイキ。特集では当社がこれから目指していく成長の方向性と戦略、具体的な取り組みを紹介します。



取締役副社長

島 三博

昭和62年3月 当社入社
平成14年6月 当社取締役
平成19年6月 当社常務取締役
平成23年6月 当社専務取締役
平成24年6月 当社取締役副社長（現在に至る）

ファッション分野以外への拡大とグローバル戦略

これまでの50年間、当社はニットを中心とした衣料分野で成長を遂げてきました。しかし世界で生産される糸のうち、衣料用途はごく一部です。そこで次なる50年は、インテリア、家庭用品、産業資材など未開拓の広大な市場へも積極的にチャレンジしていきます。

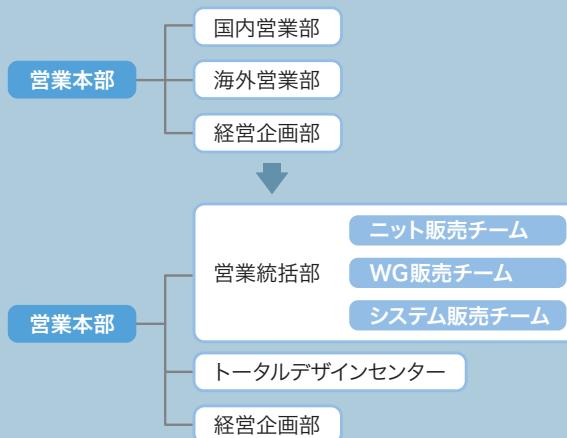
もう一つはさらなるグローバル展開。そこでは地球規模の視点と各国のローカルなニーズを視野に入れたグローバル（グローバル&ローカル）戦略で展開していきます。

グローバルを実践できる営業組織へ改革

この3月より当社の営業部門では、グローバルの視点から地域別営業における国内と海外の区分をなくすとともに、ニット、ホールガーメント®（WG）、システムの製品別に専門チームを新設しました。今後はこれらの連携により、各国・地域の顧客ニーズに応じたきめ細かい提案活動を進めます。

また、開発部門の位置付けだったトータルデザインセンターを営業本部に組み入れました。今後はサンプル作成に加え、より営業に密着した活動を強化していきます。

営業本部の組織変更（2013年3月1日付）



多品種少量時代のアパレルビジネスを支援



消費地での高品質なモノづくりへの回帰

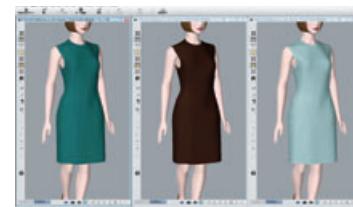
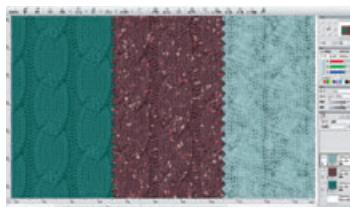
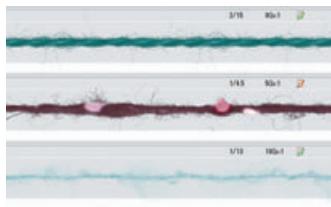
ファッション市場が多品種少量生産へと移行するなか、企画提案型の消費地のメーカーが、高品質なモノづくりを行う時代に進みつつあります。この流れはすでにイタリアなどで顕在化しており、今後全世界で加速していくと見えています。

実際、日本国内でも企画・デザインから一貫生産した自社ブランド品を全国展開する企業が現れています。当社はこうした顧客の挑戦を支援する機器やノウハウを提供していきます。

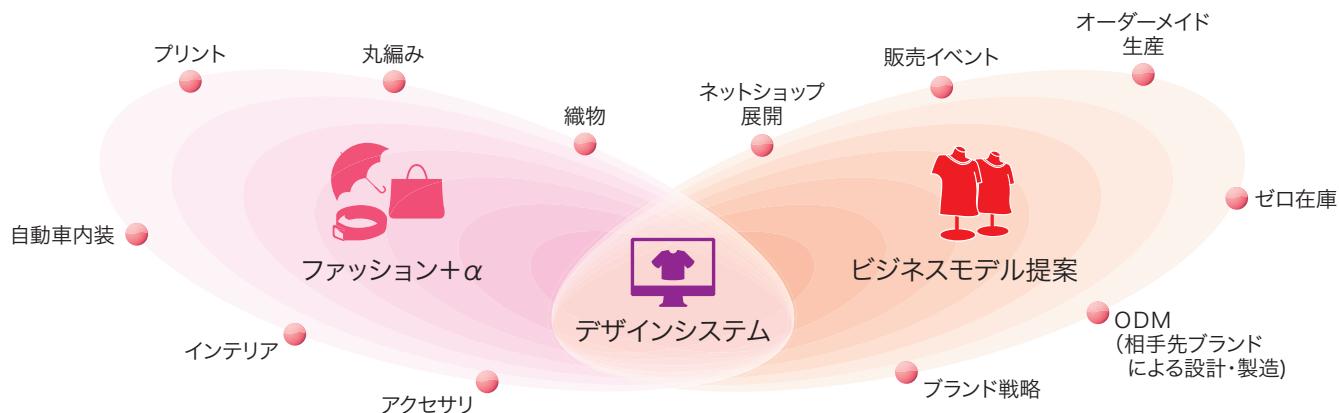
創造性を発揮させるシステムの提供

多品種少量時代のビジネス成功の鍵は、獨創性あふれるデザインの効率的な制作であり、これを支援するのがデザインシステム「SDS®-ONE APEX3」です。数々の高度な機能を活用することで、イメージしたオリジナルのデザインを素早く表現でき、さらに、デザインデータを生産に直結させることで高効率・高品質なモノづくりが実現します。

今後クリエイティブツールとしての能力をさらに高め、デザインシステム事業の拡大につなげていきます。



ファッション分野以外へも事業拡大。ビジネスモデル提案もさらに推進。



デザインシステムを核に事業領域を広げる

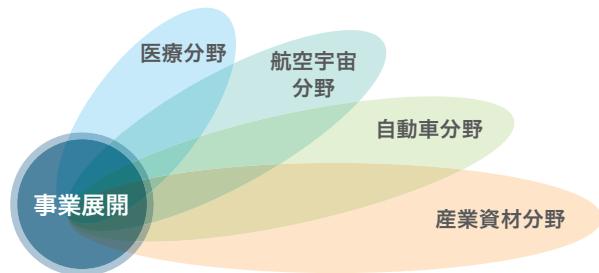
事業領域の拡大戦略の核となるのもデザインシステム「SDS-ONE APEX3」です。製品づくりの出発点となるデザインのプロセスを強力に支援するツールとして、あらゆる業種に潜在ニーズがあります。

さらに、現物サンプルを不要にする優れたシミュレーション機能が、多くの分野において企画コストの低減、開発時間の大幅な短縮、デザインレベルの向上に大きく寄与します。

提案してきたビジネスモデルを自ら実践

こうした戦略を実行するため、ホールガーメントに特化した新会社「株式会社SHIMA」を設立しました。ねらいは当社の提案するビジネスモデルを実地に見せることです。マーケティングから企画・生産・販売までのトータルな事業展開で、当社の編機・システムの活用により利益の出るビジネスが先進国でも可能なことを示すとともに、同事業で得たノウハウを営業活動にも活かしていきます。

 <p>ファッション+α</p>  <p>ハンカチ</p>  <p>カバン</p>  <p>マット</p>  <p>カーテン</p>  <p>ベルト</p>  <p>傘</p>  <p>カーペット</p>  <p>カーシート</p>	 <p>ビジネスモデル提案</p>  <p>S A M A N D O R</p> <p>ブランド戦略</p>  <p>販売イベント</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



当社では、さらなる成長を目指し、医療分野や産業資材分野などの新たな事業分野へ積極的なチャレンジを進めています。

医療分野

新開発の「三次元計測装置」で医療分野へ展開

2012年8月、和歌山大学・和歌山県立医科大学との産学協同プロジェクトで開発した「三次元計測装置」は、オーダーメイドに不可欠な「採寸」を瞬時に行うマシンです。

適用分野として想定しているのは「リンパ浮腫」の治療などに使われる医療用サポーター。この計測機で測定した三次元データを「SDS-ONE APEX3」に読み込み、ホールガーメント横編機で編成することで、患者の治療に最適な着圧の医療用サポーターを短時間で作成できます。

他にも着圧のコントロールによって身体の動きを補助するフィットネスウェアや水着など、三次元計測装置が適用できる分野は多く、開発部門では装置の高精度化など実用化に向けた研究を続けています。



三次元計測装置

常務取締役
開発本部長

有北 礼治



航空宇宙分野

「高性能裁断機」で航空宇宙分野へ進出

近年、当社は自動車業界などに向けた自動裁断機の営業活動を強化し、売上を伸ばしています。

2012年9月に発売した「P-CAM®120C」は、この流れをさらに、加速する戦略商品です。同機は新技術の採用により従来は裁断の難しかった炭素繊維やガラス繊維にも対応。さらに、樹脂やゴムなど溶着しやすい素材も高速かつ高精度にカットができます。

すでに炭素繊維が普及している航空宇宙産業など未開拓分野へのアプローチを開始し(p.13参照)、次期も展示会出展などで認知度を高めるとともに、各業界の用途・要望にきめ細かく対応した提案で、ファッション分野以外での売上拡大を目指していきます。



P-CAM120C

2013年3月期の取り組み

第52期

2012年

- 4月21日 **C S R** クラシックカーイベント「ラ フェスタ プリマヴェラ 2012」に協賛 ①
- 5月11日 **出荷** ホールガーメント®横編機MACH2®X123 8L、15Lを初出荷
- 6月 4日 **組織** 島精機(香港)有限公司のカンボジア支店を開設【カンボジア】
- 12日 **展示会** ITMA ASIA+CITME 2012に出展【中国】 ②
- 15日 **出荷** コンピュータ横編機SIR®122-SV7Gを初出荷 ③
- 9月10日 **殿堂入り** 島正博社長が「米国繊維歴史博物館」に米国人以外で初の殿堂入り【アメリカ】
- 19日 **展示会** プルミエール・ヴィジョン2013秋冬テキスタイルコレクションに出展【フランス】
- 10月 9日 **展示会** 国際航空宇宙展(ジャパン エアロスペース2012/JA2012)に出展【愛知】 ④
- 31日 **販促** 新会社「株式会社SHIMA」事業開始【和歌山】 ⑤
- 11月 8日 **創立記念** 創立50周年記念イベント(8,9日の詳細はp.14に掲載。10日は社員向けに開催)【和歌山】
- 20日 **展示会** JFW ジャパン・クリエーション2013に出展【東京】
- 28日 **技術協力** ドレクセル大学研究開発施設「SHIMA SEIKI Haute Technology Laboratory」を開設【アメリカ】 ④
- 12月 4日 **展示会** ジャパン・ベストニット・セレクション2012に協賛・出展【東京】

2013年

- 1月15日 **展示会** プルミエール・ヴィジョン・プレビューニューヨークに出展【アメリカ】
- 31日 **展示会** ダッカ・インターナショナル・テキスタイル&ガーメント展に出展【バングラデシュ】 ⑤
- 2月15日 **展示会** 第46回大阪ミシンショー&ハンズフェスティバルに出展
- 3月 1日 **組織** 営業本部内を組織改革し、国内・海外の区分をなくした営業体制に再編

第53期(予定を含む)

- 4月24日 **展示会** 医療機器展示会「メドテックジャパン2013」に出展【東京】
- 9月17日 **展示会** プルミエール・ヴィジョンに出展【フランス】



①



②



③



④



⑤

当期、ホールガーメント製品販売イベントを下記の地域で開催しました。
今後も引き続き、各地で積極的に販促活動を展開していきます。

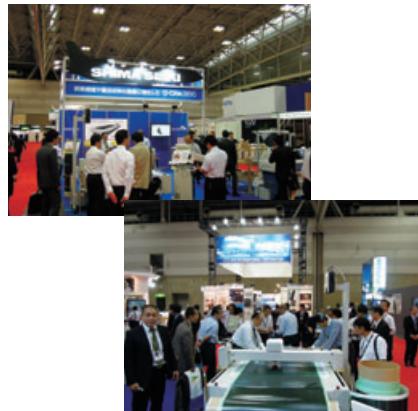
栃木	東武百貨店宇都宮店	愛知	JR名古屋高島屋	京都	高島屋京都店
東京	東武百貨店池袋店	大阪	高島屋大阪店	岡山	高島屋岡山店
神奈川	高島屋横浜店		阪急うめだ本店	宮崎	宮崎山形屋
岐阜	高島屋岐阜店				



産業資材分野の開拓を目指し「国際航空宇宙展」に初出展。

2012年10月、当社は名古屋で開催された「国際航空宇宙展(ジャパンエアロスペース2012/JA2012)」に初めて出展しました。同展は国内外の航空宇宙関連分野の企業が一堂に集まる、アジア最大規模の国際展示会(出展665社)です。新開発の戦略商品である自動裁断機「P-CAM®120C」のほか、デザインシステム「SDS-ONE APEX3」やホールガーメント横編機も出品し、これらを組み合わせた一貫した生産システムの可能性を提案しました。

当社ブースには来場者だけでなく、出展社である航空機産業のメーカー関係者も多数訪れ、シマセイキ独自の技術力に高い関心が寄せられました。今回の出展を通して、さまざまな業界における当社製品の用途やニーズ、要望など多くの貴重な情報を得ることができました。



株式会社SHIMAを設立。ビジネスモデル提案を加速します。

2012年10月に設立した株式会社SHIMAでは、ホールガーメントがビジネスツールとして優れていることを実証し、その経験を踏まえたコンサルティングにより顧客に役立つビジネスモデルを提唱していきます。

商品開発の面でも、デザインやコスト面で制約があった分野へアプローチし、ホールガーメントの特長を活かした新ジャンルの開拓を目指します。また、デザインシステム「SDS-ONE APEX3」のコミュニケーション機能も活用し、作り手・売り手・買い手の意見を十分にマッチングさせることで、高付加価値商品の創出を推奨していきます。

新会社の立ち上げに伴い、本社敷地内に「モデル工場」を新設。多品種少ロット生産と高稼働率を両立させる収益性の高いビジネスモデルを確立し、顧客のビジネス活性化に寄与していきます。



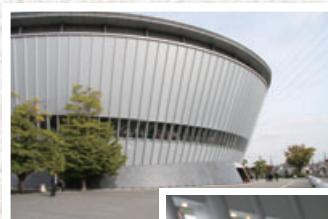
1,400名のお客様を迎え 「創立50周年記念イベント」 を開催

2012年11月8～9日、和歌山で開催した「創立50周年記念イベント」では、国内外の多数のお客様にシマセイキの現在と未来を訴求しました。

海外からも500名のお客様が来場

今回の50周年イベントには、海外のユーザー500名を含む約1,400名が来場。海外からのお客様は20カ国以上にのぼり、グローバルな事業の広がりを示しました。

サンプルコーナーでは、当社オリジナルデザインによる最新ニット製品を中心に約660点を展示。また、製品展示コーナーでは、コンピュータ横編機やデザインシステム、インクジェットプリンティングマシンの最新機種を展示したほか、編機やデザインシステムのデモンストレーションも実施しました。



会場

サンプル展示コーナー



イベントをビジネスの機会として活用

サンプルや製品の展示だけでなく、当社オリジナルデザインのファッションショーも開催。経営理念である「Ever Onward」をテーマに、当社編機・デザインシステムで作成したニット製品61体を披露しました。

最新鋭の機器と多様なサンプル、さらにファッションショーの効果も加わって、国内外の大手アパレルをはじめ多くのお客様が当社の提案にあらためて関心を寄せられ、具体的な商談にもつながるなど、今回のイベントは営業面で大きな成果を生んでいます。



当社最新の技術力を披露したファッションショー

ホールガーマント®横編機の実演



デザインシステムによる
デモンストレーション

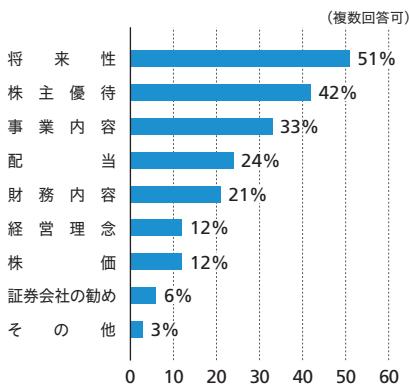
株主様アンケート集計結果のご報告

当社では株主の皆様の声をお聞かせいただくため、定期的にハガキによるアンケートを実施しています。昨年12月発行の第52期第2四半期「株主のみなさまへ」に同封したアンケートでは、約3,200名の株主様からご回答

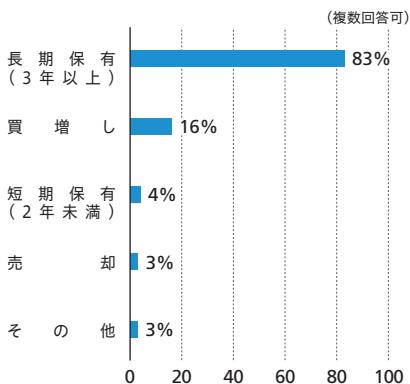
をいただきました。

皆様から頂戴した貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の広報・IR活動や事業活動に活かしてまいります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

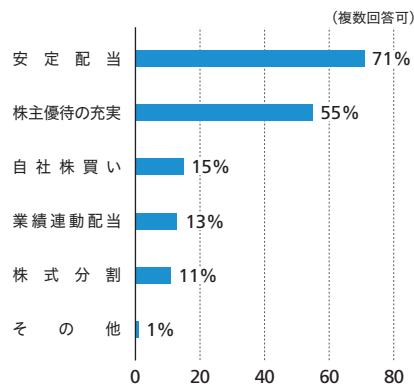
Q.1 当社の株式を購入された理由は何ですか？



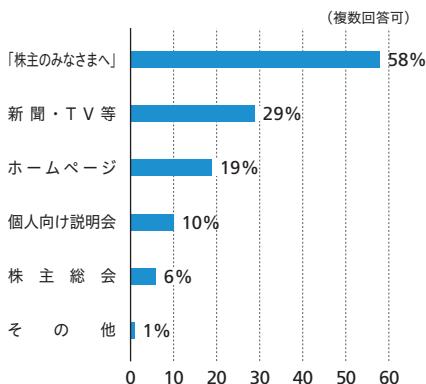
Q.2 当社の株式について今後どのようにお考えですか？



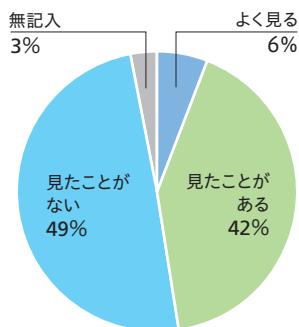
Q.3 株主還元に関して当社に期待されることは何ですか？



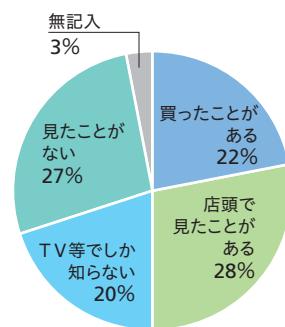
Q.4 会社情報を提供する手段として当社が今後充実すべきなのは？



Q.5 ホームページのIR情報をご覧になったことがありますか？



Q.6 当社の編織で作られるホールゲーム®について



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2013年3月31日現在	2012年3月31日現在
流動資産	73,754	67,491
現金及び預金	19,737	14,910
受取手形及び売掛金	33,700	29,857
その他	21,451	25,285
貸倒引当金	△ 1,133	△ 2,561
固定資産	38,334	39,372
有形固定資産	20,138	20,940
土地	10,833	10,930
その他	9,305	10,010
無形固定資産	4,816	5,151
のれん	4,706	5,030
その他	110	121
投資その他の資産	13,378	13,279
投資有価証券	7,215	7,243
その他	7,355	7,456
貸倒引当金	△ 1,191	△ 1,420
1 資産合計	112,089	106,863

POINT 1 資産合計

現金及び預金や受取手形及び売掛金の増加により、前期末に比べ52億25百万円増加しました。

POINT 2 負債合計

長期借入金の増加により、前期末に比べ20億10百万円増加しました。

POINT 3 純資産合計

当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことで、前期末に比べ32億15百万円増加しました。

科 目	当 期	前 期
	2013年3月31日現在	2012年3月31日現在
流動負債	16,109	17,330
支払手形及び買掛金	4,445	4,294
短期借入金	5,399	5,701
1年内返済予定の長期借入金	1,500	3,000
その他	4,764	4,333
固定負債	8,597	5,365
長期借入金	5,000	1,500
その他	3,597	3,865
2 負債合計	24,706	22,695
株主資本	97,000	95,998
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	67,321	66,303
自己株式	△ 6,905	△ 6,889
その他の包括利益累計額	△ 9,811	△ 11,995
その他有価証券評価差額金	259	△ 340
土地再評価差額金	△ 7,350	△ 7,350
為替換算調整勘定	△ 2,720	△ 4,305
新株予約権	181	153
少数株主持分	12	11
3 純資産合計	87,382	84,167
負債純資産合計	112,089	106,863

POINT 4 売上高

第4四半期以降、中国、香港市場において売上高が急増しましたが、通期の売上高では前期比6.3%減となりました。

POINT 5 営業利益・損失(△)

売上高の減少に加え、生産台数の減少などにより売上総利益率が下押しされたことで営業損失となりました。

POINT 6 経常利益・損失(△)

急速な円高修正により為替差益31億19百万円を計上したことなどにより経常利益は41億68百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2012年4月1日から 2013年3月31日まで	2011年4月1日から 2012年3月31日まで
4 ▶ 売上高	34,970	37,327
売上原価	22,758	22,894
売上総利益	12,212	14,432
販売費及び一般管理費	12,720	13,549
5 ▶ 営業利益・損失(△)	△ 508	883
営業外収益	4,977	851
営業外費用	299	1,947
6 ▶ 経常利益・損失(△)	4,168	△ 212
特別利益	42	—
特別損失	848	324
税金等調整前当期純利益・損失(△)	3,362	△ 537
法人税、住民税及び事業税	429	113
法人税等調整額	1,178	△ 9
少数株主利益	0	0
7 ▶ 当期純利益・損失(△)	1,754	△ 642

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2012年4月1日から 2013年3月31日まで	2011年4月1日から 2012年3月31日まで
8 ▶ 営業活動による キャッシュ・フロー	3,614	△ 2,093
9 ▶ 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 3,218	531
10 ▶ 財務活動による キャッシュ・フロー	227	△ 1,928
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,412	△ 396
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	2,035	△ 3,886
現金及び現金同等物の 期首残高	14,190	18,077
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	421	—
現金及び現金同等物の 期末残高	16,648	14,190

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				新株 予約権	少数 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
2012年4月1日残高	14,859	21,724	66,303	△ 6,889	95,998	△ 340	△ 7,350	△ 4,305	△ 11,995	153	11	84,167
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△ 1,112		△ 1,112							△ 1,112
当期純利益			1,754		1,754							1,754
自己株式の取得				△ 16	△ 16							△ 16
自己株式の処分			△ 0	0	0							0
連結の範囲の変動			375		375							375
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)						599		1,584	2,184	28	0	2,213
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,017	△ 16	1,001	599	—	1,584	2,184	28	0	3,215
2013年3月31日残高	14,859	21,724	67,321	△ 6,905	97,000	259	△ 7,350	△ 2,720	△ 9,811	181	12	87,382

POINT 7 ▶ 当期純利益・損失(△)

のれん償却額などの特別損失を計上しましたが、当期純利益は17億54百万円と大幅に増加となりました。

POINT 8 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加等はありませんでしたが、たな卸資産の減少等により36億14百万円の資金の増加となりました。

POINT 9 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却による収入等がありました。定期預金の預入による支出等により32億18百万円の資金の減少となりました。

POINT 10 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払等がありました。長期借入金の増加等により2億27百万円の資金の増加となりました。

(注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

会社概要

■ 会社概要 (2013年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員数 1,189名(連結1,736名)
 事業内容 コンピュータ横編機
 コンピュータデザインシステム
 CAD/CAMシステム
 手袋編機、靴下編機



本社ビル

■ 事業所 (2013年6月27日現在)

支店、テクニカルサービスセンター (TSC)

東京支店 (東京都中央区)
 東京 TSC 甲府 (山梨県中巨摩郡昭和町)
 東京 TSC 太田 (群馬県太田市)
 東日本支店 (新潟県五泉市)
 東日本 TSC 山形 (山形県山形市)
 東日本 TSC 福島 (福島県伊達市)
 西日本支店 (大阪市北区)
 西日本 TSC 名古屋 (名古屋市中区)
 西日本 TSC 泉州 (大阪府泉大津市)
 西日本 TSC 四国 (香川県東かがわ市)

海外支店 台北支店 (台北市)

工場 本社工場 (和歌山県和歌山市)

■ 役員 (2013年6月27日現在)

地位	氏名	担当および重要な兼職
代表取締役社長	島 正博	営業本部長
取締役副社長	島 三博	営業本部副本部長
常務取締役	和田 隆	生産技術部、製造技術部、システム 生産技術部担当兼生産本部長
常務取締役	有北 礼治	開発本部長
常務取締役	梅田 郁人	営業本部副本部長兼経営企画部長兼 島精機(香港)有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務人事部長
取締役	中嶋 利夫	トータルデザインセンター部長
取締役	南木 隆	管理部、物流部担当兼 経理財務部長
取締役	西谷 泰和	資材部長
取締役	西川 清方	営業統括部長
常勤監査役	植田 光紀	
常勤監査役	田中 雅夫	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	新川 大祐	公認会計士・税理士

(注) 監査役 的場悠紀、新川大祐の両氏は、社外監査役であります。

■ 連結子会社 (2013年3月31日現在)

株式会社シマファインプレス (和歌山県和歌山市)
 ティーエスエム工業株式会社 (和歌山県和歌山市)
 株式会社海南精密 (和歌山県海南市)
 東洋紡糸工業株式会社 (大阪府泉北郡忠岡町)
 SHIMA SEIKI EUROPE LTD. (イギリス)
 SHIMA SEIKI U.S.A. INC. (アメリカ)
 島精機(香港)有限公司 (中国)
 (SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)
 SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A. (イタリア)
 島精榮榮(上海)貿易有限公司 (中国)
 (SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)
 SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U. (スペイン)
 東莞島榮貿易有限公司 (中国)
 (SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)
 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
 SHIMA SEIKI KOREA INC. (韓国)

株式概要

株式の状況 (2013年3月31日現在)

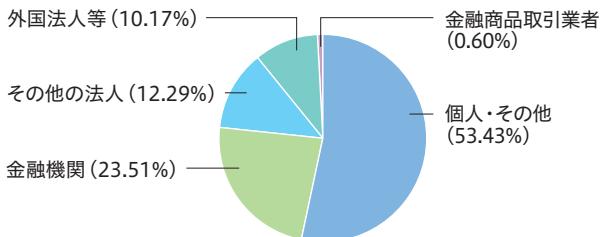
- ① 発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③ 株主数…………… 17,171名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

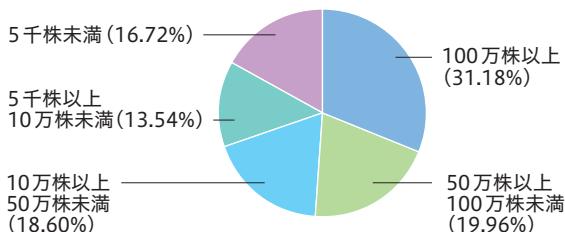
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
和島興産株式会社	3,450	10.08
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,142	6.26
株式会社紀陽銀行	1,310	3.83
島 正 博	1,070	3.13
島 三 博	1,060	3.10
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.57
シマセイキ社員持株会	767	2.24
合 同 会 社 和 光	765	2.24
株式会社池田泉州銀行	700	2.05
後 藤 ひ ろ み	697	2.04

(注) 当社は、自己株式2,379千株を保有していますが、上記大株主から除外しています。
持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

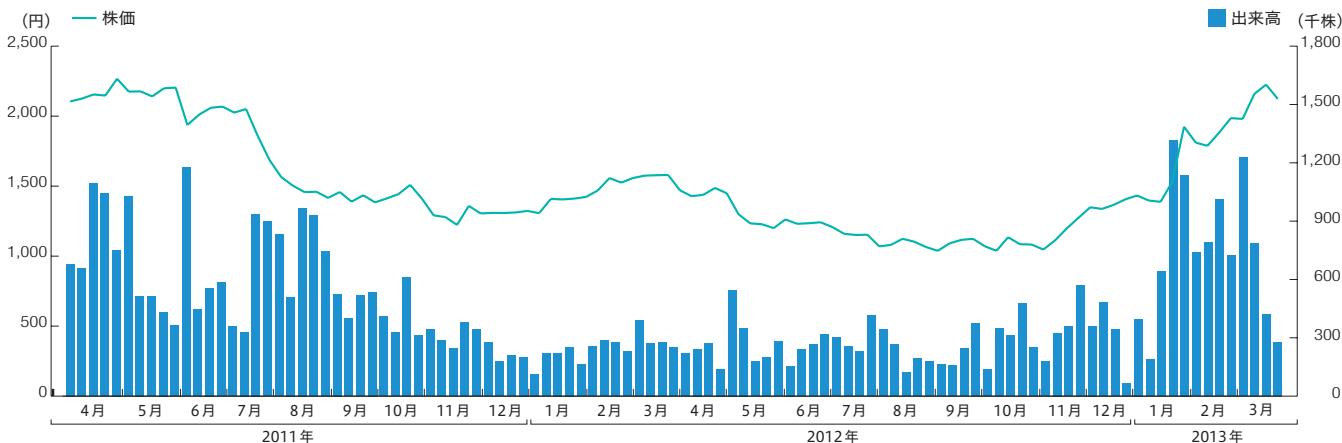
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去2年間)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	基準日	3月31日	
	開催日	毎年6月	
配当金受領株主確定日	期末配当金	3月31日	
	中間配当金	9月30日	
公告方法	電子公告		
	下記当社ホームページに掲載 (http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html) ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社		
	大阪証券代行部		
	〒541-8502		
	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取ご請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フュージョンミュージアムが リニューアルオープン

2012年11月、和歌山市内に開設している「フュージョンミュージアム」をリニューアルしました。ニットとシマセイキの歴史を紹介する年表を見やすく改良したほか、「機能は2倍、価格は半分」で評判を呼んだシマトロニック®ジャカードコンピュータ制御横編機SNC(1978年)のキャリッジを新たに展示するなど、当社の技術革新の歴史をより強く実感していただけるようになりました。

また、体験コーナーではご自身でデザインしたマフラーやクッションカバーなどを作ることができます。

皆様のご来場をお待ちしております。



SNCのキャリッジを展示



オリジナルニットの体験コーナー



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL (073) 471-0511 (代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、ホールガーメント、MACH2、NSSG、P-CAM、SDS、SIR、SSR、シマトロニックは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

この報告書は環境にやさしいベジタブルインキを使用しています。